

令和4年度 第9回 市長定例記者会見

定例会見

日時：令和4年11月22日（火） 11:30～

会見内容

1. 発表事項

(1) 岐阜市子育て世帯生活応援事業について

子ども未来部 子ども支援課

(2) 岐阜スーパース「岐阜市ホームタウンデー」の初開催について

ぎふ魅力づくり推進部 市民スポーツ課

(3) ワークダイバーシティ推進の取組について

経済部 労働雇用課
福祉部 障がい福祉課

1-(1) 岐阜市子育て世帯生活応援事業について

1 趣旨

- ・本市では、中小企業等への支援、物価高騰に直面する生活者支援とともに市内消費の喚起による経済の活性化を図るため、**キャッシュレス決済を活用した地域経済活性化事業（ぎふで買っとく！キャッシュレス応援キャンペーン）**を11月15日まで実施
- ・厚生労働省が令和4年9月に公表した「**2021（令和3）年 国民生活基礎調査**」によると、全世帯の中でも、特に**児童（18歳未満の未婚者）のいる世帯は、経済的な負担感が高い**という結果

➡ **岐阜市独自の事業として、家計負担が特に大きい子育て世帯の生活を応援するため、所得制限を設けなくて、プッシュ型にて商品券を配付する事業を実施**

2 事業概要

○配付する商品券

- ・「**JTB ナイス ギフト**」1万円分（一般競争入札により決定）
全国100万店以上の店舗において**利用可能な商品券（1,000円券10枚）**

○配付対象

- ・**10月31日（基準日）時点において岐阜市の住民基本台帳に登録されている高校3年生相当までの児童、約6万人**
- ・基準日から**令和5年2月28日までの間に住民基本台帳に登録される新生児も対象**
- ・DV等の被害により岐阜市に避難されている方は、個別の申出により配付

○受取方法

- ・**対面で受渡し**をすることとしており、
- ・**12月中旬から、基準日時点の住所地へ、ゆうパックにて順次配付。**
ご不在の場合は、**不在票が投函**されますので、速やかな受取にご協力ください。



「JTB ナイス ギフト」

全国100万店以上の JCB ギフトカード取扱店で利用可能な商品券

1-(2) 岐阜スーパース「岐阜市ホームタウンデー」の初開催について

○はじめに

- ・本市では、市民がスポーツに触れ合う機会を創出するため、市民に夢と感動を与え、一体感を醸成する
プロスポーツを活用したスポーツ振興を進めている。
そのため、市民のシビックプライドの醸成を図り、活力ある地域社会の形成を目指して、初めての岐阜スーパース「**岐阜市ホームタウンデー**」を開催。

○現在の岐阜スーパースの状況

- ・岐阜スーパースは、
平成30年度（2018年）にバスケットボールのB3リーグに参戦し、現在、**5シーズン目**を迎えている。

○岐阜スーパースとの連携

- ・これまでの岐阜スーパースへの支援について、
岐阜連携都市圏においては
令和2年10月に山県市、瑞穂市など**7自治体**と、
「岐阜連携都市圏と岐阜スーパースとの連携に関する協定書」を締結し、
令和4年2月には羽島市も加わり、現在は計**8自治体**で、
地域におけるバスケットボールの普及と
活力ある地域社会の形成に寄与するため、
協働による事業を推進。

○本市の取り組み

令和4年度の**本市**の取り組みとして、

- ・岐阜スーパースの**選手たちが学校等を訪問**し、
小中学生に直接**バスケットボール教室**を行う**交流事業**を実施するため、
2022シーズンのスタートに合わせて、訪問を希望する学校等を募集。
- ・本日、**11月22日**に、**長森西小学校**で体育の授業を利用して
第1回目を開催。
- ・3年生95名と、岐阜スーパースの山田洋介選手、マタス・ユツィカス選手が交流し、
笑顔あふれるバスケットボール教室を予定。

○岐阜市ホームタウンデー

- ・今年度のさらなる新たな取り組みとして、
2023年1月14日（土）、15日（日）に、
岐阜メモリアルセンター **で愛ドーム**（収容人数 4,000人）での
岐阜スーパース対品川シティバスケットボールクラブ戦において、
「**岐阜市ホームタウンデー**」を開催。

○岐阜市民の無料招待

- ・**岐阜市民**を両試合の**2階席**に**1,000名**ずつ、
合計**2,000名**無料招待するもの。
12月1日（木）9:00から12月23日（金）12:00まで、
岐阜市のホームページから専用フォームで**観戦者を募集**。
- ・**応募者多数**の場合は**抽選**。
- ・なお、**1申込み**にて、**最大5名**（親子連れをターゲット）まで
お申し込みいただくことが可能ですが、
両ゲームともにお申し込みの場合は無効となる。
- ・また、お申し込みの際には、**スポーツ意識アンケート**を実施。

1-(3) ワークダイバーシティ推進の取組について

1 テレワークを活用したショートタイムワーク事業

- ・4～6月に**実施事業者**を募集。
- ・7月から**10事業者**でワーカー募集を開始した結果、10/1から11/22までに**7事業者**で**10人**の雇用を開始。

・(株) AIリクエスト (出版・広告代理)	3人
・(株) ADベシス (広告・イベント)	1人
・(同) N. (戦略・経営コンサル)	1人
・三承工業 (株) (建設業)	1人
・(株) 高修 (事務機器・事務用品販売業)	1人
・(株) ドングルズ (教育支援業)	1人
・ルトー (電子商取引)	2人

◆事業者およびワーカーの声

【事業者の声】

- ・**即戦力となる高いスキル** (デザイン、ネットショッピング) を持つ人材を、採用することができた。
- ・子どもが大きくなれば**フルタイムで働きたい**という希望をワーカーから聞いている。**いずれ正社員として採用することも考えたい。**
- ・市の**広報等**で募集するため、一定の**信頼性が確保**されるとともに、**多数の市民がご覧になられる**ことで、優秀な人の応募があった。
- ・**タブレットを活用**することで、オフィスにいなくても**ニュアンスを伝える**ことができている。

【ワーカーの声】

- ・1回**1～2時間程度**の勤務で、家事のコマ切れの時間や子どもが寝た後に、仕事をすることができ、**時間の有効活用**ができている。
- ・これまでの**社会経験で獲得したスキルが有効活用**できている。

2 ワークダイバーシティ実証化モデル事業

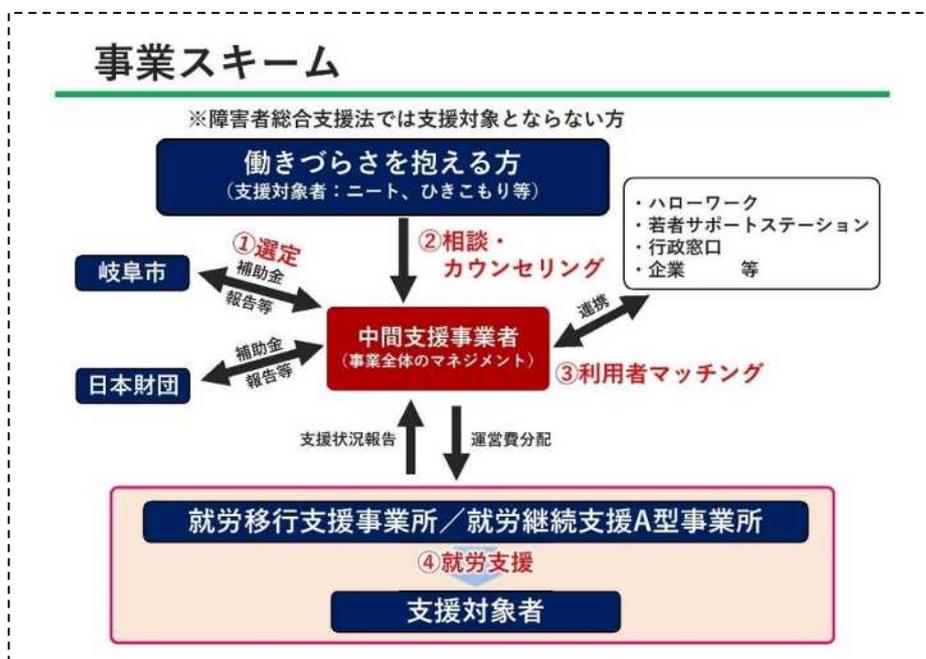
- ・日本財団は、^{にっぽんざいだん}多様な働き方で働く、^{にっぽんざいだん}多様な形で支援することを目的に、「日本財団 WORK! DIVERSITYプロジェクト」をスタート。
- ・本年度、そのモデル事業を岐阜市、千葉県、福岡県の3自治体で実施。

→既存の制度の枠組みでは支援の対象とならない

働きづらさや生きづらさを抱える方に対し、

就労移行支援事業所及び就労継続支援A型事業所を活用し、

就労支援サービスを提供。



※就労移行支援事業所/就労継続支援A型事業所は、支援対象者に対し、事務作業やパソコン操作、プログラミング、パンの製造などの実践的な訓練を行う

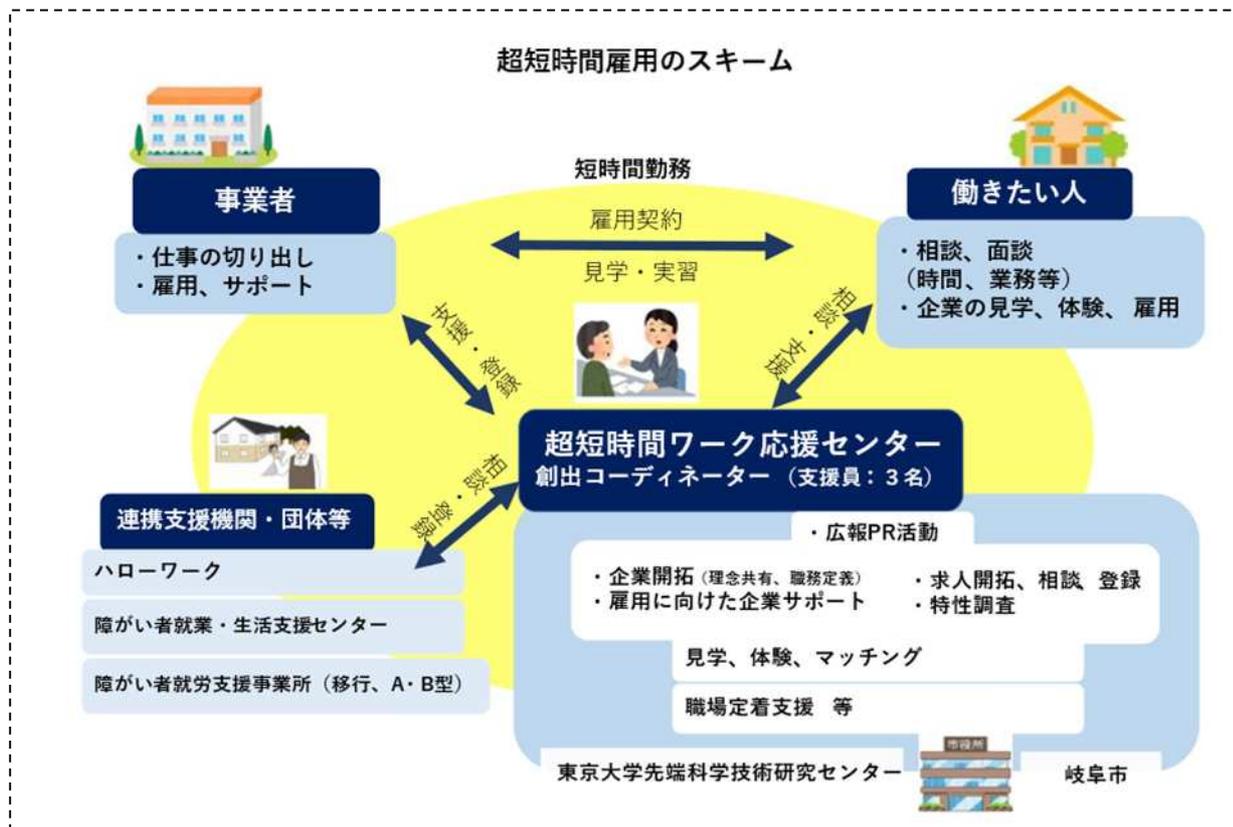
- ・9/2 から 11/22 まで、
相談件数 **18 件**、そのうち **3 人**が就労支援サービスの利用を開始。

就労支援サービスを提供する事業所・就労支援サービス利用人数

- ・ウェルテクノスジョブトレーニングセンター岐阜（就労移行支援事業所）・1人
- ・工房はばたき（就労移行支援事業所）
- ・ノックス岐阜（就労移行支援事業所）・1人
- ・ワークサポートあすなろ（就労移行支援事業所）
- ・ぎふ就労支援センター（就労継続支援A型事業所）・1人

3 超短時間雇用創出事業

- ・本市は東京大学先端科学技術研究センターに委託契約し、2021年から超短時間雇用のスキーム作り着手。
- ・本年4月に**超短時間ワーク応援センター**を開設し、これまでに、**相談 97人、求職者登録 40人、就労者 5人、職務定義 14件**の実績。



※**超短時間雇用**とは…東京大学先端科学技術研究センター近藤武夫教授が提唱している新しい雇用の形。

人手が欲しい企業と短時間で働きたい求職者をマッチングし、雇用を創出する取組み。(障害者雇用率の算定対象外)

◆超短時間雇用を開始した事業者およびワーカーの声

【事業者の声】

- ・なかなか見つからなかった人材を、職務定義を行うことで、作業内容に見合った雇用に結びつけることができた。雇用後に、センターのサポートを受けられるのも安心だ。
- ・障害者雇用の経験がなく不安を感じていたが、とてもまじめに仕事をされているので、他の社員も仕事に対する向き合い方が変わってきたように感じる。

【ワーカーの声】

- ・週1日、3時間。長い間仕事のブランクがあり体調など不安だったが、短時間なので不安がなく得意なパソコン作業をこの先も長く続けられそうだ。
- ・週2日、2時間。短時間のほうが病院に通いやすく、ゆとりもあり精神的に安定する。